



令和5年度 学校便り

藍志(あいし) 第5号

令和5年(2023年)9月12日

発行者: 藍住中学校 西山伸二

2学期スタート! ~始業式式辞より~

さて、藍住中学校の特色である生徒会の「わくわく活動」がいよいよ始まります。“One for all, all for one”(ひとりみんなのために みんなはひとりのために)をテーマに自分たちで考え行動する取組は、将来、多様な人々と力を合わせて困難な課題を乗り越える力につながることでしょう。そこで、私からひとつのお願いとして「聴く」ということを大切にしてほしいと考えています。「集団の質は“聴く”姿勢に現れる」と言われます。人の話を聞く姿勢は、信頼関係を築き、広い視点で物事を考えられるようになる重要なキーとなります。スマホやパソコンなどのICTが発達している今日こそ、この「聴く」姿勢の重要性をますます感じています。この「聴く」ことに関わる、ドイツの教育哲学者ボルノーの言葉を紹介します。「聴くことにより、自分の固まった考え方が見直され、自分自身で改め、学び直し、よりよい深い生き方に到達する」

学級委員任命式~挨拶より~

校則の見直しについて、この度、経済産業省後援の「ルールメイキングサミット2023」が東京で全国の中高生100名を募集して開催されますが、その中に本校が選ばれ、生徒会長が全国の舞台で藍住中学校の取組を発表することとなりました。これも全て、皆さんや卒業生の方々の取組の成果だと思っています。今、藍住中学校は徳島県だけでなく全国的にも注目される学校となりました。核となる学級のリーダーとして、誇りと責任を持ち、この藍住中学校の生徒や教職員のみなさんが安心して笑顔で過ごせられるよう、共に力を合わせていきましょう。



ルールメイキング
・サミット2023

文化祭

(表現の部)

今年度は4年ぶりの全校生徒が体育館に集まった開催となりました。オンラインと違い、観客(生徒)の反応を直接感じることができ、ライブのよさを実感しました。また、観客の拍手やリアクションからステージで演じる仲間への温かな心遣いを感じました。普段の授業では知ることのできない素敵一面が見られ、鳴教大の実習生の方からは「藍住中学校は秘めたパワーを持っていますね。」という感想を頂きました。このステージに立つまでに、学級や有志の仲間と練習を繰り返し、苦労も多かったかもしれませんが、その努力の成果が花開いた表現の部であったと感謝いたします。



(展示・バザーの部)

展示の部では生け花などが飾られ、格調高い文化を感じることができました。各学級の模擬店では工夫を凝らした飾り付けがなされ、「いらっしゃいませ!」と元気な声で迎えてくれました。今年はPTAバザーも復活し、綿菓子やポップコーンを保護者の方が汗だくになりながら作ってくれました。制服のリサイクルバザーも開催され、大盛況となりました。校舎を歩いていると、すれ違う藍中生のみなさんの笑顔がとても素敵で、「学校っていいな、おもしろいな。」と感じさせてくれるひとときでした。終了後の片付けで、学級のみなが力を合わせて段ボールをたたんだり、床を掃いたりしている姿から、一生懸命にやりきった気持ちが伝わってきました。元どおりになった教室や廊下を見て、芭蕉の句が頭に浮かびました。



「夏草や兵(つわもの) どもが夢の跡」